

平成31年3月 日

長岡市長 磯田 達伸 様

与板地域委員会

委員長 長谷川 一夫

与板地域の地域資源を生かす取り組みに関する提案書

<はじめに>

与板地域は、古くからの城下町、越後与板打刃物の産地として知られ、豪商の面影を伝える「登り屋台」や「楽山苑」など、豊かな歴史と文化遺産に恵まれたところです。また、市民の憩いの場としての「河川公園」や、新たな交流拠点としてオープンした「与板★中川清兵衛記念BBQビール園」は、市内外からの利用者で賑わっています。

第1分科会では、「観光・地域おこし・まちづくり」をテーマに「豊かな歴史・文化遺産の有効活用、交流人口の拡大と、地域への誇りや愛着の醸成」について議論を重ねてきました。

<審議経過>

上記の課題について議論を進める中で、今の与板に必要なものとして、まず与板の住民に与板の良さ、魅力に気づいてもらう。そのよさや魅力を発信する。双方向の大切さを改めて確認し、その方途を考えてきました。

その過程で、地域住民による与板の魅力の掘り起こしと情報共有の場、地域内外への情報発信、地域活動の充実、文化遺産の保存・保護及び活用などを通して、交流人口を拡大したいと考えました。

そこで、課題解決の方途として、以下の4項目について提案します。

<提案事項>

1 タウン情報誌の作成と活用

与板地域の史跡や神社仏閣、魅力的な店舗、十五夜まつりや各種イベントは多くの人をひきつける。また、地域では多様な取り組みをしている人も多い。

そこで、与板地域の住民が主体となって多様な視点から与板の魅力を探り、取材・編集したタウン情報誌を発行し、与板の魅力を発信したいと考える。

この編集会議をベースとして、与板の魅力を共有できる場を整えながら、将来的には夢や起業について語る会議へと発展させたいと考えている。

2 古地図の活用

与板地域には、城下町の街並みや史跡が数多く残されており、古地図も残されている。与板の歴史や文化についての学習機会に古地図を活用することは、啓発方法の一つとして有効と思われるため、古地図の有効活用について検討くださるようお願いいたします。

また、現在、古地図は経年劣化が懸念されている。デジタル化することによって、半永久的に保存が可能となり、展示や調査・研究用としても活用できるため、今後検討くださるようお願いいたします。

3 名所や史跡の説明看板設置と活用

市民からも長岡市名誉市民の三輪晁勢画伯、大矢紀画伯の生家をはじめ、地域の名所・旧跡など説明案内板を設置してほしいという声が寄せられている。説明案内板を設置することで、与板の歴史・文化について地域住民はもとより来訪者の理解を促すことや、地域の子供たちへ継承も可能になる。

すでに観光看板等が設置されているが、さらに充実させるには、既存の標柱に解説を付けることが有効と考える。事業説明案内板の設置について検討くださるようお願いいたします。

4 文化遺産の保存・保護及び活用

与板地域には、新潟県指定と長岡市指定を合わせて25の文化財があり、長岡市・寺院・神社等が所有している。(長岡の文化財冊子に掲載)

それ以外の文化遺産についても、資料の保存・保護及び活用が求められている。そして、それらのうち、より歴史的価値が認められるものについては、指定に向けた調査・取組みを検討くださるようお願いいたします。

また、現在、与板歴史民俗資料館の休館日は毎週月曜日である。他施設の休館日は、「祝日を除く月曜日」や「毎月第1・第3月曜日」(祝日等の場合は翌日)などとなっている。

資料館の近くには「与板★中川清兵衛記念BBQビール園」が開設されており、土日・祝日の利用者は多い。利用者の利便性を高め、交流人口の増加につなげる意味でも、月曜日が祝日の場合は開館し翌日を休館にするよう、運営方法の見直しについて検討くださるようお願いいたします。